

第191回電気通信紛争処理委員会

1 日時

令和元年5月14日（火）10時10分～12時00分

2 場所

・議題(1)について：

東京ソラマチ5階ジャパンエクスペリエンス ゾーンイーストヤード9番地（東京都墨田区押上1-1-2）

・議題(2)について：

東京スカイツリー（東京都墨田区押上1-1-2）

3 出席者（敬称略）

(1) 委員

中山 隆夫（委員長）、小野 武美、平沢 郁子、山本 和彦（以上4名）

(2) 特別委員

荒井 耕、青柳 由香、小塚 荘一郎、矢入 郁子（以上4名）

(3) 株式会社NTTドコモ

取締役常務執行役員 R&Dイノベーション本部長 中村 寛、
取締役常務執行役員 ネットワーク本部長、ネットワーク部長兼務
田村 穂積、
R&D戦略部 技術戦略担当部長 小畑 和則
電波部電波企画担当部長 牧山 隆宏

(4) 日本テレビ放送網株式会社

技術統括局局長代理 片柳 幸夫、同局専門局次長 浦野 丈治、
同局専任局次長 林 直樹、同局回線運用部副主任 遠藤 哲
同局回線運用部 平野 勇太

(5) 事務局

事務局長 山崎 俊巳、参事官 渡辺 久晃、紛争処理調査官 蒲生 孝
上席調査専門官 田中 一生、上席調査専門官 瀬島 千恵子、

上席調査専門官 岩崎 未希子

4 議題

- (1) 株式会社NTTドコモによる5G関連展示の説明等【公開】
- (2) 日本テレビ放送網株式会社の放送施設の視察【非公開】

※ (2)の議題については、会議を公開することにより、当事者又は第三者の権利、利益を害するおそれがあるため、電気通信紛争処理委員会運営規程第16条第1項の規定に基づき非公開で開催し、同規程第17条第1項及び第18条第1項の規定に基づき、会議の議事録及び使用した資料を非公開とする。

5 審議内容

(1) 開会【公開】

【中山委員長】 おはようございます。ただいまから第191回電気通信紛争処理委員会を開催いたします。

本日は委員4名が出席されていますので、定足数を満たしております。また、特別委員4名の御出席をいただいております。

議事に入ります前に、文書による審議の形で開催いたしました前回、前々回の委員会について、御報告いたします。

3月の第189回委員会において、平成30年度年次報告(案)につき御審議いただき、4月の第190回委員会においては、平成30年度年次報告の決定及び総務大臣に対する報告について御審議いただきました。審議の結果、委員全員の賛成が得られましたので、4月26日に総務大臣に提出し、公表したところでございます。御協力いただき、ありがとうございました。

本日の委員会は、まず、株式会社NTTドコモ様の御協力により、第5世代移動通信システム(5G)関連の御説明をいただいた後、会場を移動し、日本テレビ放送網株式会社様に御協力いただき、放送用施設の視察を行うことを内容として開催いたします。

本日は、大変お忙しい中、中村取締役常務執行役員、田村取締役常務執行役員

をはじめ、御対応いただきますNTTドコモの皆様に、委員会を代表して御礼申し上げます。ありがとうございます。

(2) 株式会社NTTドコモによる5G関連展示の説明等【公開】

【中山委員長】 それでは、議事に入ります。

議題1といたしまして、今申し上げましたNTTドコモ様による5G関連の展示を含めた取組について御説明を頂戴します。

まず初めに、取締役常務執行役員の田村様より御挨拶を頂戴いたしたく思います。よろしくお願い申し上げます。

【田村取締役常務執行役員】 すいません、ドコモでネットワークを担当している田村と申します。今日はよろしくお願いいたします。

特に今日は天気が悪い中、わざわざお越しいただきまして、ありがとうございます。私どもも4月に5G向けの電波を頂きまして、ラグビーのワールドカップの際に5Gのプレサービスということで、ちょっと端末も限られていることもありまして、お客様から料金を取らない形でサービスを開始させていただきました。本格的には、その年が明けてから、2020年から、今、春ということで公表していますが、5Gのサービスを開始する予定でございます。

本日は、5Gの特徴を生かしたデモを幾つか用意していますし、あと、中村のほうからも5Gの概要について説明させていただきますので、皆様方に御理解いただければよろしいかなと思います。今日はよろしくお願いいたします。

【中山委員長】 ありがとうございます。

では、続きまして5Gを活用した将来のサービス等に関する展示を含めた取組の状況について、御説明をお願いいたします。よろしくお願い申し上げます。

【中村取締役常務執行役員】 改めまして、今日はおいでいただきましてありがとうございます。R&Dを担当してございます中村と申します。

こちらの施設は、昨年4月にプレイ5Gという名前でオープンしておりますが、5Gのサービス、今、田村のほうで申しましたように、今年9月にプレサービス、来年の春には商用サービスを計画してございますが、それを前に、様々な皆様に5Gがどういうものに御活用いただけるかということで、展示するホールとして、こちらをつくってございます。

後ほどホールのほうの展示も御覧いただければと思っておりますが、その前に私のほうから20～30分程度で5Gの概要、特にどういふことで5Gが世の中に生かされていくのかということについてお話ししたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

では、まず初めに百聞は一見にしかずでございますので、ちょっと簡単なビデオがございます。5G時代にどんな生活になるのかという5分ぐらいのビデオがございますので、まず、そちらを御覧いただければと思ひます。

これは、Sharing our Futureということで、202X年、あと4、5年先ぐらいの世界と言われてございます。

では、まずは御覧ください。

(ビデオ上映)

【中村取締役常務執行役員】 どうもありがとうございます。こちらは、Sharing our Futureというビデオでございます。フルバージョンは7分ぐらいございまして、今日は時間の都合でショートバージョンでございますが、もし御興味がありましたら、私どものウェブページへ行きますとフルバージョンが御覧いただけるかと思ひます。

御覧いただいたように、例えば家の中ですとスマートホームのような形で様々なIoT機器が連動して、それぞれの人の生活をサポートしてくれるとか、自動運転の車の中でいろんなエンターテインメントを楽しんだり、スポーツの観戦も様々変わってくるのではないかというようなことをビデオにしたものでございます。

今はまだちょっと先の世界でございますが、5Gの時代になってきたときに、5Gだけでできるわけではございませんが、様々な産業の皆様と協力することによって、こういう世界ができてくるのではないかというようなビデオでございます。

5Gの時代といっておりますが、大体、移動通信、ほぼ10年ごとに主題が変わってございます。1979年に移動通信、世界に先駆けて日本で始まっておりますが、80年代、90年代、2000年代、現在2010年代ということで、現在は第4世代でございますが、スマートフォン等が中心になった世界になってございます。

これまでは、どちらかというと皆様一人一人の生活を豊かにする、個人の生活を豊かにするような形で進んでございますが、第5世代は、先ほど御覧いただいたように、様々な産業の皆様とともに世界が変わってくるのではないかと。ある意味のデジタルトランスフォーメーションが起こる時代だというふうに考えてございます。

こちらが、その絵を描いてございますが、デジタルトランスフォーメーション、様々な要因で起こってくるかと思っております。当然、AIもそうですし、IoTもそうだと思いますが、その中の1つの大きな柱が5Gなのではないかなというふうに我々は思って、5Gを始めているところでございます。

では、5G自体が一体どういうものかということでございますけれども、これもいろんなところでお話を伺っていらっしゃるかもしれませんが、5Gの特徴、3つございます。大容量、高速な通信が更にできる。今のLTEより更に高速になっていくというものでございますし、加えて、特に産業の皆様にお使いいただくときに重要だと考えておりますのは低遅延。遠隔制御とか、そういったときには遅延があってはどうしても使えませんので、低遅延ということも一つ追求してございます。

もう一つは、最初のビデオのスマートホームにあったように、様々なデバイスが家の中に隠れているかもしれませんが、そういったものが同時にネットにつながるといような多数接続、このような世界ができてくると考えてございます。

ただ、絵がここら辺、微妙にずれているのは意味がありまして、3つのものが全て同時にできるというところまで、まだ来ておりません。例えば多数接続は多数接続で、高速・低遅延というのはワンセットで提供できるかなと考えてございますが、高速・低遅延で多数接続というのはまだなかなか難しいというふうに考えています。今のところは、こういう2つの世界がそれぞれ実現できてくるのではないかとというふうに考えてございます。

当初、田村のほうに申しましたように、私どものスケジュールでは今年の9月、ラグビーワールドカップを契機にプレサービスを開始したいと思っておりますし、来年のオリンピック・パラリンピックを前に、春には商用サービスを考えてございます。

5Gの世界に限りませんが、移動通信の世界は、実は世界どこに行っても、皆様お持ちのスマートフォンがすぐに使える、ローミングというふうに申ししておりますが、そういう世界ができてございます。それがなぜできているかというところ、下のほうに書いてございますが、移動通信のシステム、世界で統一された規格で動いてございます。

標準化とっておりますけれども、3GPPと左のほうにログがございますが、そこが世界的に規格を決める団体で、第4世代、LTEから以降は世界の統一規格に事実上はできているという世界でございます。第5世代も同様な形で、世界の統一規格の形で動いておまして、昨年6月に最終的な、まず第1版でございますが、5Gの仕様ができたところでございます。それに基づいて今年の9月、来年の春というスケジュールでサービスを開始しようというところでございます。

続きまして、5Gでございますが、どういったところに展開しようかということでございますけれども、第4世代までは特に大容量・高速というのが特徴でございましたので、基本的にはお客様が多くいらっしゃるのところ、混んでいるところにまずは展開しようということで、都市部を中心に展開してまいりました。

第5世代は、もちろんそういう側面はございますので、都市部からというものあるのですが、もう一つ大きな要因が、冒頭から申ししていますように、様々な産業の皆様にお使いいただくということを考えておりますので、それが地方であったり、郊外であってもお使いいただくビジネスがあったり、要望があれば、積極的に打っていこうと考えてございます。

例えばスマートシティですとか、スマートファクトリーとか、高度医療センターみたいな、必要なところがあれば、そういうところにも当初から展開していこうというふうに考えているところでございます。これが多分、5Gの1つの新たな特徴に加わっているところだと思っております。

また、5Gでございますが、今申し上げましたようなことは、基本的にはドコモ1社、若しくは携帯事業者1社でできるものではございませんので、様々な業界の皆様とのコラボレーションの上で生まれてくるものだと思っております。

弊社では「+d」というような言い方を今進めておりますが、B to B to Xとよく言われるビジネスモデルで、パートナーの皆様と私どもと一緒に新

しい世界を「協創」する、私どもの当て字ですけれども、ともに協力しながらつくり出すということをしていきたいと考えております。特に5Gの世界で、それを今進めておりますので、それについて最後御紹介していきたいと思っております。

5Gの時代、「協創」するための仕組みとして、これも昨年の2月でございしますが、ドコモの5Gオープンパートナープログラムというのを開始させていただきました。このプログラムは、様々な業界の皆様にお声がけをさせていただいて、まず5Gがどういうものかというような、例えばワークショップとか、様々なディスカッションの機会を設けるとともに、集まっていたいただいた皆様とともに5Gの実際のユースケースをつくり出して実験をしよう。実際に5Gのシステムは今年の秋以降しか動きませんが、実験室、5Gのラボをつくりまして、そこでは実験環境を用意して、実際に5Gの電波を使った世界をつくっております。

そういった中で5Gの実験をして、まず5Gのサービスが始まる前から弾込めをしていこうというようなことをしております。既にここではパートナーの皆様が2,600社を超える数になっております。これだけのパートナーの皆様が集まって、既にディスカッションを始めておりますが、世界的に見ても、これだけのパートナーの皆様が集まったというのは、多分、私どものこの場だけではないかと思っております。

ラボのほうも、東京の四谷に最初つくりましたが、引き続いて大阪、沖縄というふうに展開してまいりまして、その後も順次展開しております。特徴的なのは、今年の3月にグアムにもつくらせていただいております。何でグアムかということなのですが、実はドコモはドコモパシフィックという会社を持っておりまして、グアムでもオペレーションしてございますので、グアムは、ドコモ海外拠点でもあるということでございます。海外への展開ということも含めて、海外の拠点をつくって、こういうところで実験をしているところでございます。

あわせて、これは単にパートナーの皆様とドコモという2つの関係だけではなくて、2,600もパートナーの皆様がいらっしゃいますので、パートナーの皆様の間でも新しい組合せでの「協創」ができるのではないかと考えております。御存じのように、皆様は、比較的その業界には詳しい皆様ですけれども、業界を超えたところでお互いにディスカッションをする場がなかなか無いというのも

事実でございます。様々な業界の皆様がいらっしゃるのです、こういった場で業界を超えたディスカッションというのでも進めています。

マッチングと書いておりますけれども、ワークショップ等で様々な皆様がお互いにディスカッションすることで新しい価値が生まれてくるなどということも、今つくっているところでございます。

2,600社いらっしゃる皆様の業種ですけれども、見ていただければ分かるように、ほぼ全て考えられるような業種の方は入っていらっしゃると思います。当然、サービス業、小売業の方が多いわけでございますが、メディアとか、例えば運輸・交通、金融、メディカル、医療系の方も入っていただいています。また、特徴的なのは自治体の方が非常に多く入っていただいております。地方課題、地方の創生、若しくは過疎、そういった課題についても、ここの中で取り組んでいるというような状況でございます。

この中で、今、実際にどういうことが生まれているかということ、これ、一覧で書いてございますが、パートナーの皆様が非常に多うございますので、生まれかけている案件も多くございます。既に150件ぐらい具体的な案件として、いろんなものができてきておりますので、今日は時間が限られてございますが、1、2件ビデオでどんなものができているか、御紹介させていただければと思っております。

これ、非常に有名なユースケースですけれども、働き方改革につながるものがございますが、建設機械の小松製作所さんと協力してやらせていただいています。建設機械を遠隔から操作しようというものでございます。御存じのようにブルドーザー等の重機は、操作するのに非常に熟練の技が必要だということがございますが、実際のドライバーの方も高齢化してきているというのもございます。現場は日本中に散らばっているわけでありますので、そういう方が日本中を飛び回るのも大変なので、例えば、このようなエアコンのきいたきれいな部屋で遠隔化操作できれば、実際の仕事の効率も上がるだろうということでの実験でございます。

では、ちょっとビデオのほうを御覧ください。

(ビデオ上映)

【中村取締役常務執行役員】 こういった形で働き方改革につながるブルド

ーザーの遠隔操作というものでございますが、高速・低遅延な通信というのはどうしても求められるということです。

では、ちょっと時間もございますので、もう一つ、二つ。次は医療のほうに行きましようか。

医療現場での5Gのユースケースということでございます。これ、デモンストレーションでございますので、展示場に置いてありますけれども、緊急時とか、高度医療設備を備えた病院がない地域に実際に高度医療設備を持って行って医療行為をするというような車でございます。この中に先生に乗っていただいて行くということでございますが、高度医療の場合、非常に高度なアドバイスが必要だということで、非常に熟練した先生が遠隔からローカルの先生に対して医療のアドバイスをしながら実際の医療行為をするというようデモンストレーションでございます。

では、ビデオのほうをちょっと御覧いただきます。

(ビデオ上映)

【中村取締役常務執行役員】 これ、東京女子医大の先生と検討させていただいてまして、こちらが遠隔地にいらっしゃるということで、この設定は新幹線の中というデモになっています。この2つを5Gでつなぐことによって、遠隔からのアドバイスを受けながら治療行為を進めているということでございますが、医療の現場で映像を使って患者さんの状態を診ていますので、MRIとかCTとか、そういったような画像を共有しながらアドバイスを頂くというようなものでございます。

これも医療現場での5Gの利用ということで、今、非常に多くの事例が創出されている中の1つでございます。

最後に、これ、全く違うロケーションになりますが、先ほどラグビーワールドカップとかオリンピックというキーワードも出しましたが、スポーツ現場で5Gが活躍できるのではないかというものでございます。

昨年、三浦半島でウィンドサーフィンのワールドカップがありましたが、その中で実際に選手は沖のほうに、観客の方は浜にいますので、実は小さくしか見えないという課題がございます。かつ、それを映像で撮ろうとしてもケーブルが敷けないということで、望遠レンズで撮るぐらいしかない。5Gを使うと船の上に

映像機械を全部載せて、近くから迫力のあるシーンを無線で飛ばせるということで、パブリックビューイングをしたというものでございます。

これもビデオのほうで御覧ください。

(ビデオ上映)

【中村取締役常務執行役員】 これ、ウィンドサーフィンのワールドカップのシーンでございますが、これが載せた船です。ここに5Gの無線機があります。

これが基地局側といいますか、浜辺のほうで、これが5Gのアンテナになります。これで沖のボートを狙うということになっております。このボートは、実際に沖のほうに出まして、ウィンドサーファーの近くからカメラで狙うというシーンでございます。

実際に映像を撮っているところです。物によってはドローンなんかも使いながら、いろんなシーンを撮るということで実験をしております。

ここでは、いろんなカメラから撮った映像を船の中で1つのスイッチャーに集めまして、ここで映像をスイッチングしながら浜のパブリックビューイングに送っているというようなことを船の上で既にできてしまっています。ナレーションも、ここでつけてしまう。

実際に見ていただいた方に伺ってみると、こういうシーンをウィンドサーフィンで見られなかった、遠くでしか見られなかったということで、非常に楽しんでいただきましたというものでございます。

時間も限られましたので、3つぐらいシーンを見ていただきましたが、5Gオープンパートナープログラムというのを2,600社で今始めております。これ、実はdailyで会社さんは増えておりますが、こういう新しいソリューションを皆様とともにつくっているところでございます。

こういうことを用意しながら、今年の9月、それから来年の春に向けては、5Gの私どもの提供により、皆様とともに新しいサービスも提供できればなど考えているところでございます。

この後、席を移動させていただきまして、こちらの中で幾つか、これに類似した展示もございますので、実際の展示のほうも御覧いただければと思います。

私の説明は以上でございます。何か御質問等ありましたらお受けいたしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【中山委員長】 ありがとうございます。ただいまの御説明に関しまして御質問等ございましたらお願いいたします。どうぞ。

【矢入特別委員】 これからI o Tの時代になって農業のほうの5 Gの利用とかがすごく見込まれていると思うのですけれども、農業となりますと過疎地だけではなくて、かなり僻地の農耕場所のところに、無人でこのネットワークが入ることがすごく大事になると思います。そうなったときに採算性が非常に気になっておまして、御社ではどのような戦略をとられているのか。

非常に気になりましたのは、去年もこの委員会でシェアされていたのですが、西日本の水害で基地局が被害を非常に受けたということがございまして、僻地の場合には、そういった災害とか、いろいろ懸念があるのではないかと考えまして、アセスメントから含めて、きちっと利益を上げるための戦略とか、いろいろお考えだと思いますので、お聞かせ願えればと思います。

【中村取締役常務執行役員】 今日は御説明で割愛してしまいましたが、実は5 Gというのは、単独で動いているものだけではなくて、今の4 Gのネットワークと一緒に動くようなシステムになっているため、例えば4 Gのネットワークは、もう既に日本の大体の人がお住みのところはカバーしてございます。

その上に5 Gを載せるという形でございますので、例えば今お話しいただいたようなI o T、特に農業I o Tで今求められているのは、通信速度はそんなに要らないのです。例えば温度を見るとき、そのときの水温を見るとき、データ量は少ないが、1日しっかり監視したいというような要求でございましたら、いきなり5 Gを使う間でもなく、4 Gの世界でもそれが実現できていると思っています。

現に今、4 Gの中で多くの実験をさせていただいていますので、そのようなこともできるかと思えますし、更にカバレッジが必要であれば、例えば衛星を使うとか、通信手段を1つにしないで、いろんなものをうまく組み合わせながら能率よく、効率よく実現できるのが一番リーズナブルなソリューションかなというふうに考えております。

【矢入特別委員】 ソリューションは、もうかなり具体的に考えられているところですか。

【中村取締役常務執行役員】 そうですね。更にはワンホップしてL o R aを、

別の無線通信を使うとかというのもやっていますし、様々な方法を使いながら実現できるのではないかと考えております。

【矢入特別委員】 ありがとうございます。

【田村取締役常務執行役員】 僻地については、例えば今、北海道の本当に車しか通らないようなところについては、他携帯電話事業者等と一緒に鉄塔を建ててシェアリングしたりとかしています。多分、5Gになると、そういった話が出てくると思いますので、そういったところについては例えば光ファイバーケーブル、電源についてはお互いに共有しましょうですとか、今回は、そういったことも対応していこうかなと思っています。

【矢入特別委員】 では、インフラを更に充実されていかれるのですか。

【田村取締役常務執行役員】 そうですね。

【矢入特別委員】 頑張ってください、応援しています。

【平沢委員】 基地局を新たに設置ということではなくて、今までのものをそのまま活用するような形になるのですか。

【中村取締役常務執行役員】 2つございまして、基地局とっていますのも物理的なアンテナとか、電波を増幅する部分というのは周波数ごとに全部違う装置になります。これは、今回、5Gに新しく周波数を我々頂きましたものがございますので、そういうところは新しく打たないといけないかなと思っています。

ただ、受けた電波を制御する部分というのが基地局のもう半分の機能がございしますが、その部分は、今ある4Gのシステムをそのまま使いながら、ソフトウェアを更新することで5Gの無線を収容できるように考えてございますので、その両方をうまく使いながら効率的にやっっていこうというのが今の考え方でございます。

したがって、全く新しいものがないかという、新しいものはございますし、使えるものは全部使い倒すと、その2つ。

【中山委員長】 ほかにいかがですか。よろしいですか。

素人的な質問で大変恐縮ですが、日本は5Gが遅れているというふうに言われていて、数年前でしたか、ドイツと一緒にやっっていこうとか、ドイツに何となくすり寄っているような感じをちょっと思ったところがありましたけど、現

実に御覧になって、どのようなところが実情なのかということをお教えいただけますでしょうか。

【中村取締役常務執行役員】 世界から5Gが遅れているのではないかと、いろいろお話は聞くのですが、私、実はあまりそういうふうに思っていないところもごさいます。冒頭申しましたように5Gの規格ができたのが昨年6月で、今、サービスを開始したのがアメリカと韓国、これ、どちらが世界初だということで、4月頭に時差を使いながら、まだ決着つけていないのですけれども、世界一を争ったというのがごさいますけれども、実際にサービスを開始したのは事実であります。他社さんのことを我々がとやかく言う話でもありませんが、端末がどれぐらいそろっているとか、サービスがどれぐらいできているかということは、これからなのではないかなというふうに見ております。

今御覧いただいたように、我々、単に5Gというものを無線のシステムとして提供するだけではなくて、サービスとともにしっかりつくっていきたいと思っております。また、その上にビジネスが乗らなければ5Gの価値も出ませんので、そういったことを一緒にやりながら、適切なタイミングで5Gを始めていきたいと考えております。

そういった意味では、我々、実は世界のトップに行っているのではないかなというふうに思っているところであります。

【中山委員長】 そうですか、安心いたしました。あともう一つ、私は、5GはIoTが中心になってくるかなというふうに思っていたのですが、皆様いろいろ聞いてみると、IoTのほうにウイルスが既に入り込んでいるのではないかと、そういうところはどうか。それに対応の電気機器なんかも随分売り出されていますから、そのあたりはどんなふうに対処されていますでしょうか。

【中村取締役常務執行役員】 セキュリティーの面で言うと、例えばよく話になっているのがIoTのカメラがウイルスに感染して、それが踏み台になってウイルスをばらまくみたいな話がよくあつたりしていると思います。

セキュリティに関しては、End to Endで、トータルでしっかり守らなきゃいけないものだと思っております。私ども通信事業者としては、その間のネットワークの部分については、私どもの責任としてセキュリティはしつ

かり。今日は時間もございませんので全部はしゃべれませんが、いろんなところにファイアウォールをつくったり、セキュリティーの担保をしながらということとはしてございます。

また一方、I o Tの機器、今言ったようにカメラであったり、センサー等については、御利用いただく皆様がそれぞれでI o Tの機器のセキュリティーを担保していただかないと、これは皆様の機器ですから、そこでしっかり担保しなきゃいけない。

例えば皆様がお使いのパソコンであれば、皆様がウイルスチェッカーを入れたり、ウイルスソフトを入れたりということでお守りになっていると思います。それと同じようなことを機器を設置する皆様もしていただかなきゃいけないということで、エンド・エンドの部分が必要だと思えます。

今、問題になっているのが古いI o Tの機器が、実はウイルス対策がちょっと弱いのではないかみたいな話があって、そういうことが起こっておりますので、そういうところも含めて、どう強化していくかというのは考えていかなきゃいけない課題はまだあると思っておりますが、新しいものについては、そういうプロテクションも進んでいると聞いておりますので、新しいものは、なるだけそういったものを導入していくというのが肝要かなと思っております。

【中山委員長】 ありがとうございます。

【田村取締役常務執行役員】 オペレーションを監視することは、こことはまた別に品川のほうにきちっと見ている部分がありますので、また機会があれば先生方に見ていただければよろしいかと思えます。

【中山委員長】 ありがとうございます。よろしいですか。

【中村取締役常務執行役員】 それでは、場所を移らせていただきまして、実際に物がございますので、少し御覧いただければと思えます。

(展示物を視察)

(3) 日本テレビ放送網株式会社の放送施設の視察【非公開】

(4) 閉会【非公開】